

4 2 安全で快適な生活道路の整備（防災・安全）

計画概要

◆計画期間

平成21年度 ～ 平成25年度

◆交付団体

瀬戸市、春日井市、小牧市、尾張旭市、豊明市、日進市、清須市、北名古屋市、東郷町、一宮市、犬山市、江南市、稲沢市、岩倉市、扶桑町、津島市、愛西市、弥富市、大治町、飛島村、半田市、常滑市、大府市、知多市、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町、岡崎市、西尾市、幸田町、碧南市、刈谷市、安城市、高浜市、豊田市、新城市、豊根村、豊橋市、蒲郡市、田原市

計画概要

◆計画の目標

愛知県内の全道路延長の87%を占める市町村道は、幹線道路と一体となって地域に密着した道路網を形成し、【活力】地域の連携や振興、【安全】地域住民の暮らしの利便性・安全性の向上、【暮らし・環境】福祉や救急医療に大きく貢献する役割を担っている。しかし、その改良率は59.6%であり幹線道路の73.1%に比べてまだまだ遅れており、市町村道の整備は緊急の課題となっている。

このため、【活力】地域内及び観光地への安全で快適な移動を実現するための生活幹線道路ネットワークの整備、【安全】歩行者・自転車の安全確保のための歩道設置を中心とした交通安全施設整備、児童が安全に通学できる環境確保のための通学路緊急合同点検における要対策箇所の整備、橋梁の耐震化・長寿命化や舗装の補修による道路の老朽化対策及び事前防災・減災対策の推進【暮らし・環境】バリアフリー対策等誰もが安心して利用できる快適な道路の整備を、関連するソフト事業等を組み合わせて行うことにより、地域の活力を促進させる安全で快適な生活道路の整備を目指す。

◆計画の成果目標(定量的指標)

- 総合目標 道路の課題に対する県民の不満度を約1割改善
- 個別目標 総合目標の達成に向け、分野別の以下の個別目標の達成を目指す。
 - 指標①:【活力】市町村道の幹線道路へのアクセス時間の20%短縮
 - 指標②:【安全】市町村道の事業実施箇所における死傷事故件数の2割削減、
市町村道の通学路の要対策箇所における安全確保の推進
道路の老朽化対策の推進
 - 指標③:【暮らし・環境】特定道路におけるバリアフリー化率75%達成

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※1	事業の実施状況※2	進捗率 ※2
A 基幹事業	9,716百万円	【活力】－％、【安全】81％、【暮らし・環境】－％	81％
B 関連社会資本整備事業	－ 百万円	－	－％
C 効果促進事業	126百万円	【活力】－％、【安全】86％、【暮らし・環境】－％	86％
合 計	9,842百万円		

※1 事業費は実績額

※2 事業の実施状況、進捗率(%)は、計画に対する整備完了事業の割合【事業数ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

【安全】

- ・地域住民の安全性向上を図る歩道設置、交差点改良、カラー舗装等の安全対策事業において、整備が完了した67%で歩行空間の安全の確保やドライバーへの視認性を向上した。
- ・道路施設の点検、舗装の補修等の老朽化対策事業は、計画どおり完了し事前防災・減災を推進した。

【活力】、【暮らし・環境】

- ・地域の連携や振興を図る生活道路関連事業および誰もが安心して利用できるバリアフリー対策等の事業は、関連する整備計画「4 安全で快適な生活道路の整備」にて評価する。

II 定量的指標の達成状況（別紙1）

個別目標：総合目標の達成に向け、分野別の以下の個別目標の達成を目指す。

指標②【安全】市町村道の事業実施箇所における死傷事故件数の2割削減

(市町村道の事業実施箇所における事業実施後の死傷事故件数) / (H16～H20の年平均死傷事故件数)

当初現況値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	歩行者への事故対策として、主に抜本的な対策である歩道設置を中心に実施し、路肩のカラー舗装化による即効対策も推進したことで、死傷事故件数の削減に寄与し目標値を達成した。
最終目標値	80%		
最終実績値	80%		

指標②【安全】道路の老朽化対策の推進

(補修済み延長) / (早急な補修を必要とする市町村道延長)

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	道路の老朽化対策として、早急に実施する必要がある舗装の点検・補修や法面および道路付属物の点検について、計画どおり完了し目標値を達成した。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

※下記の個別目標については、関連する整備計画「4 安全で快適な生活道路の整備」にて評価する。

指標①【活力】市町村道の幹線道路へのアクセス時間の20%短縮

(市町村道の事業実施箇所における事業実施後のアクセス時間) / (事業実施前のアクセス時間)

指標②【安全】市町村道の通学路の要対策箇所における安全確保の推進

(対策済み箇所) / (市町村道の通学路でH24年度に事業実施する要対策箇所)

指標③【暮らし・環境】特定道路におけるバリアフリー化率75%達成

(バリアフリー対策を実施した延長) / (特定道路におけるバリアフリー化計画延長)

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（別紙2）

総合目標：道路の課題に対する県民の不満度を約1割改善

※目標については、本計画及び関連する整備計画（4 安全で快適な生活道路の整備）に参画する市町村にて満足度を評価する。

指標①【活力】「暮らしを支える～日常的に使う道路の整備や改良」に関する不満度

不満度：道路に関する県民アンケートにおける「やや不満」「不満」の割合

当初現況値	約 6 割	目標値と実績値に差が出た要因	本計画による事業の実施や整備効果の発現、また、各市町村の個別の生活道路対策とあわせて県民の整備に対する認識が高まり、不満度の改善が図られたと考えられる。
最終目標値	約 5 割		
最終実績値	約 3 割		

指標②【安全】「交通事故・老朽化箇所をへらす～交差点の改善や歩道の設置、道路の状態」に関する不満度

不満度：道路に関する県民アンケートにおける「やや不満」「不満」の割合

当初現況値	約 7 割	目標値と実績値に差が出た要因	本計画による事業の実施や整備効果の発現、また、各市町村の個別の交通安全対策および老朽化対策とあわせて、県民の認識が高まり、不満度の改善が図られたと考えられる。
最終目標値	約 6 割		
最終実績値	約 5 割		

指標③【暮らし・環境】「誰もが快適な道路空間を～バリアフリー化」に関する不満度

不満度：道路に関する県民アンケートにおける「やや不満」「不満」の割合

当初現況値	約 7 割	目標値と実績値に差が出た要因	本計画による事業の実施、また、各市町村においては個別にバリアフリー化対策を推進したが、県民の幅広い認識には繋がらず、快適な道路空間整備に関する不満度の改善に至らなかったと考えられる。
最終目標値	約 6 割		
最終実績値	約 8 割		

※県民アンケートについて

■実績値

- 平成26年度第2回県政世論調査
- (3) 日常的に使う道路の整備や改良
- (6) 交通事故を削減するための、
交差点の改良や歩道の整備
- (9) 道路の計画的な維持管理
- (7) 歩道のバリアフリー化や電線類の地中化

■指標

- 【活力】
- 【安全】

■現況値

- 平成19年度県民の皆さまへのアンケート調査
- (3) 暮らしを支える(日常的に使う道路の整備や改良)
- (6) 交通事故を減らす(交差点の改善や歩道の設置)
- (9) 大事に使う
(高齢化する道路施設の計画的な維持管理)
- (7) 誰もが快適な道路空間を
(バリアフリー化、電線類地中化)

◆今後の方針

地域の活力を促進させる安全で快適な道路の整備を目指した本整備計画において、計画の目標である【活力】、【安全】、【暮らし・環境】の各指標に対して、関連する整備計画「4 安全で快適な生活道路の整備」とあわせて概ね目標を達成することができた。

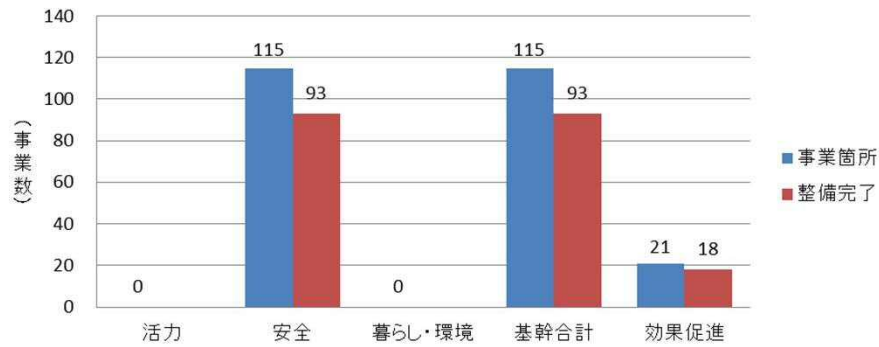
ただし、歩道設置などの事業においては、整備が完了した事業が67%となり、用地交渉の影響により完了には至らなかった事業があるため、早期に効果が発現するよう引き続き次期整備計画にて整備を推進する。

また、老朽化対策の事業においては、本整備計画にて点検を実施し修繕を計画した箇所について、次期整備計画で着実に修繕を実施し、事前防災・減災を推進する。

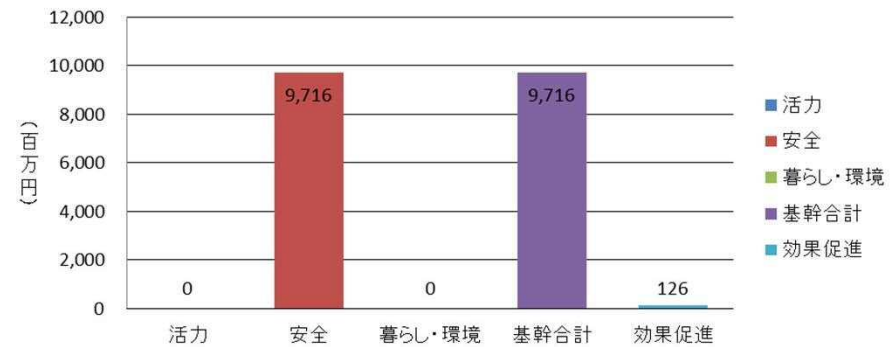
◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	愛知県 建設部 道路維持課 施設整備グループ
事後評価の実施時期	平成28年 3月
公表の方法	愛知県ホームページにて公表

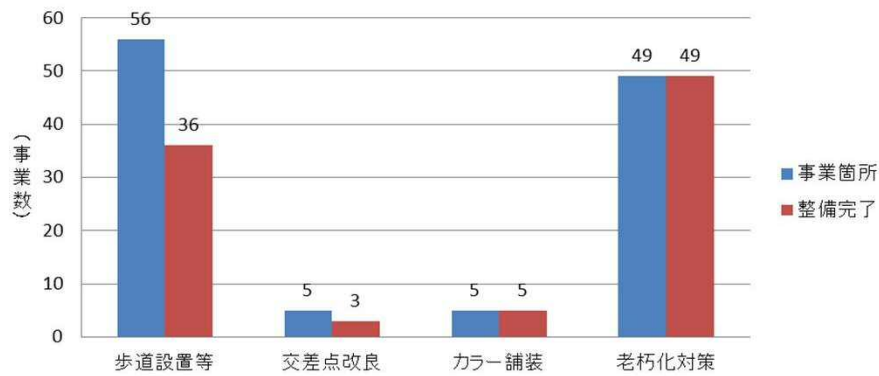
「42 安全で快適な生活道路の整備(防災・安全)」
【事業数の実施状況】



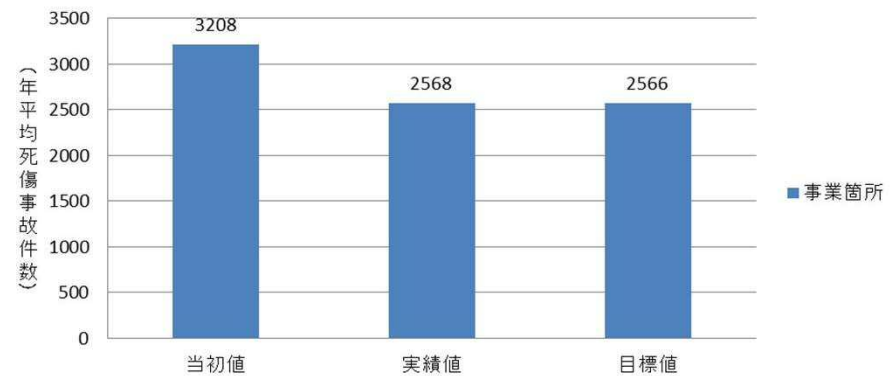
「42 安全で快適な生活道路の整備(防災・安全)」
【事業費】



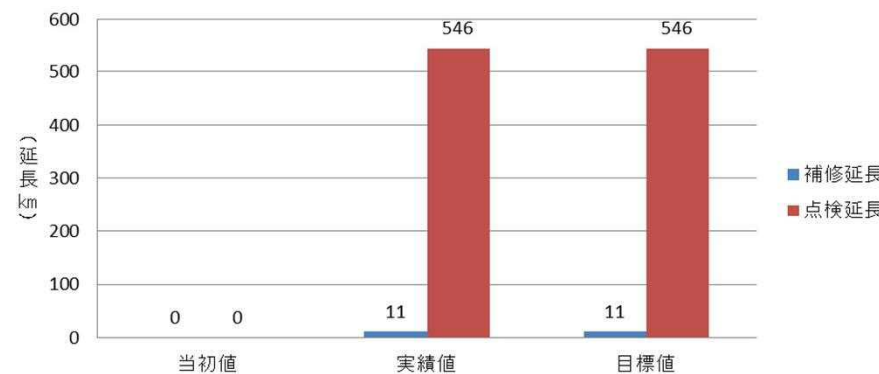
【安全】事業実施内容



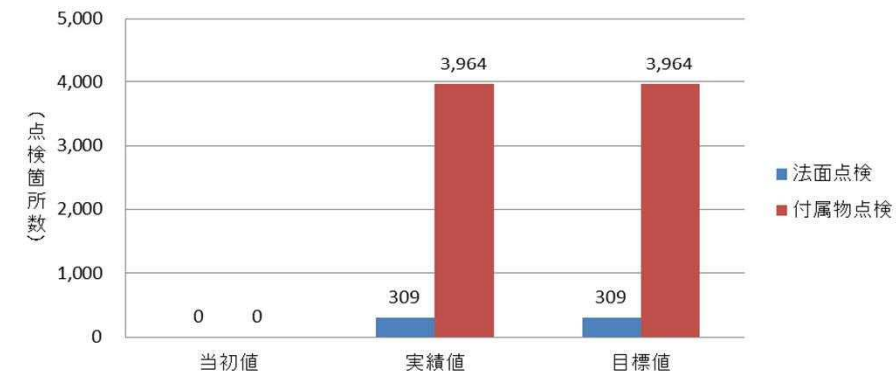
【安全】事業実施箇所における死傷事故件数



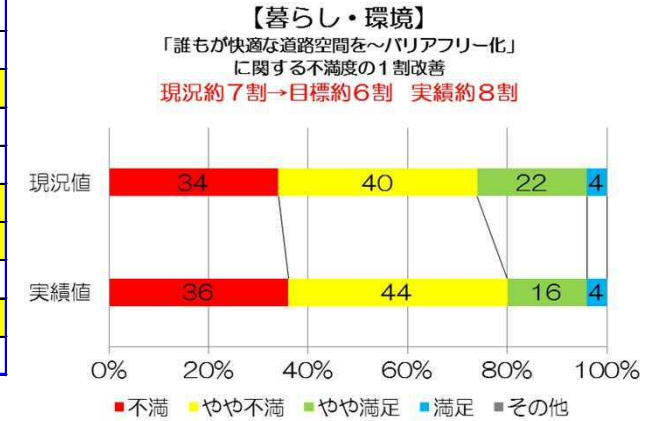
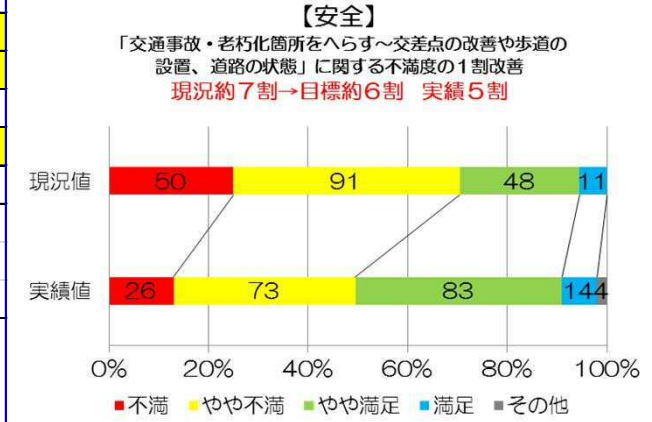
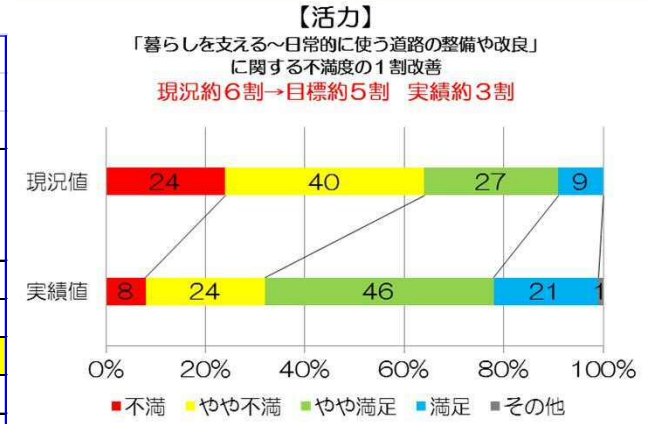
【安全】道路の老朽化対策(舗装)



【安全】道路の老朽化対策(法面・付属物)



4安全で快適な生活道路の整備、4.2安全で快適な生活道路の整備（防災・安全） 成果目標「現況値・実績値」について						
平成19年度県民の皆さまへのアンケート調査						
項目	不満	やや不満	やや満足	満足	備考	
①渋滞を減らす	23	43	27	7		
②ものづくりを支える	14	31	44	11		
③暮らしを支える	24	40	27	9	【活力】	
④災害に備える	15	45	33	7		
⑤上手に使う	14	38	41	7		
⑥交通事故を減らす	33	42	19	6	【安全】	
⑦誰もが快適な道路空間を	34	40	22	4	【暮らし・環境】	
⑧人と地球にやさしく	18	48	29	5		
⑨大事に使う	17	49	29	5	【安全】	
⑩いつでもベストな状態に	16	39	39	6		
平成26年度第2回県政世論調査						
項目	できていない	どちらかといえばできていない	どちらかといえばできている	できている	無回答	備考
①渋滞することなくスムーズな移動	11	25	48	15	1	
②物流拠点を結び、広域道路網	3	14	58	24	1	
③日常的に使う道路の整備や改良	8	24	46	21	1	【活力】
④災害に強い安全な道路づくり	11	38	40	9	2	
⑤既存道路の有効活用	15	42	34	8	1	
⑥交通事故を削減するための、交差点の改良や歩道の整備	15	38	38	8	1	【安全】
⑦歩道のバリアフリー化や電線類の地中化	36	44	16	4	0	【暮らし・環境】
⑧人と地球に優しい、環境配慮した道路整備	22	45	27	4	2	
⑨道路の計画的な維持管理	11	35	45	6	3	【安全】
⑩道路をいつでもベストな状態に保つための、適切な日常管理	9	33	47	9	2	



位置図

